

報 告

- ◎ [2003年集団研修森林研究コース開催](#)
- ◎ [森林の生物多様性シンポジウム、成功裡に終わる](#)
- ◎ [CIFOR（国際林業研究センター）と共同研究協力に関する覚え書き（MOU）交換](#)

◎ 2003年集団研修森林研究コース開催

去る9月2日（月）から11月22日（金）までの約3か月間、2002年度の集団研修森林研究コース・林業サブコースを実施しました。

政府開発援助（ODA）の一環として、森林総合研究所が研修実施機関となり、開発途上国の研究者を育成し、その研究水準の向上を図るため開設されたものです。

本年度も、一般講義、カンントリーレポート発表会、集団研修旅行、個別研修、ファイナルレポート発表会、閉講式など予定の全日程を無事に終了しました研修員それぞれの研修内容をここにご紹介します。



閉校式にて修了証を手にする研修生

1. Mr. ノンディヴァン（カンボディア国）

- 受入担当：林業動向解析研究室
- 研修科目：日本の林業政策と木材流通市場の動向解析
- 研修概要
 - 戦後日本における木材需給の展開構造の把握
 - 日本の森林・林業政策の特徴把握
 - 日本の林業経営並びに木材流通の現状把握
 - カンボディア林業と日本林業の比較検討

2. Mr. ファン チャン オリヴァス（ペルー国）

- 受入担当：環境計画研究室
- 研修科目：森林生態系管理のためのGIS技術
- 研修概要
 - 衛星画像を用いた分断化した森林地域の抽出
 - 森林地域の地図化と分断タイプの把握
 - 森林分断タイプと地形要因（標高、傾斜）との関係解析

3. Mr. カシム ハムザ マデウェヤ（タンザニア国）

- 受入担当：林業システム研究室
- 研修科目：森林管理計画
- 研修概要
 - エコツーリズム講義
 - GIS講義及び実習
 - 社会林業講義

4. Ms. カニタ ミーディエツ（タイ国）

- 受入担当：資源解析研究室
- 研修科目：森林経営のためのリモートセンシング
- 研修概要
 - 衛星画像を用いたタイ北部熱帯季節林の植生タイプマップの作成
 - 焼畑移動耕作地帯の抽出とその変化のモニタリング

5. Ms. ナリン ウォンカティヤ（タイ国）

- 受入担当：微生物工芸研究室
- 研修科目：リグノセルロースの有効利用のための微生物工学
- 研修概要
 - 酢酸菌によるセルロース生産のための優良菌株の選抜
 - 酢酸菌のセルロース生産に及ぼす阻害剤の影響
 - 酢酸菌のセルロース生産に係る酵素への阻害剤の影響

（研究協力科海外研修専門官 吉岡章次）

◎ 森林の生物多様性シンポジウム、成功裡に終わる

地球環境の保全の観点から森林の生物多様性に関して考究していくことが、国内的にも国際的にも求められています。当所では、森林の生物多様性保全を、中期計画における重要な一研究分野と位置づけて研究に取り組んできています。しかし、研究者各自が自分に与えられた範囲の研究を行っているだけでは研究の総合的進展は望めません。そこで、これまでの各自の研究の現状を広く多くの方々に知っていただくとともに、所内外の研究者間の情報の共有化を図ることを目的として、森林の生物多様性シンポジウムを昨年12月3日（火）～4日（水）に本所大会議室及び第二会議室を会場として開催しました。

シンポジウムでは、招待講演2題、プロジェクト研究成果2題、一般講演10題の発表が行われました。

招待講演として、東京大学・樋口広芳教授及び放送大学・岩槻邦男教授から、それぞれ「生物多様性をめぐる諸問題」、「生物多様性研究の現状と課題」と題するお話をいただき、生物多様性研究の重要性の共通認識を得るのに役立ちました。

プロジェクト研究成果から、「アンブレラ種としてのオオタカは生物多様性の保全に有効か？」及び「森林における生物間相互作用ネットワークとニホンジカの個体数数管理」が発表されました。一般講演では、「森林施業地の生物多様性をどう評価するかー植物分野の取り組みと課題ー」等の発表がなされました。

一般講演に続き総合討論が行われ、講演内容を発展させる意見等活発な討議がされました。

本シンポジウムでは口頭による発表の他に、ポスターセッションで7題の発表も行われました。選ばれた優秀なポスターは生物多様性別棟に展示される予定になっています。

さらに、本シンポジウムに引き続き、「第6回生物多様性条約締約国会議報告会」が行われ、生物多様性に関する国際的な動向に関する情報提供がされ、国際的視野での研究の重要性が認識されました。

本シンポジウムを開催し、研究者間におけるコミュニケーションが深まり研究の方向付けが得られたとの評価が聞かれました。また外部からは大学、関係独立行政法人、都道府県森林林業試験研究機関、地方公共団体、コンサルタント会社、行政等から127名の参加を得ました。

なお、講演要旨は、下記のアドレスからご覧いただけます。
<http://www.ffprtaffrc.go.jp/symposium/biosympo/regime.html>
 （森林の生物多様性シンポジウム事務局担当）

上席研究官 松浦邦昭）



シンポジウム会場（大会議室）の様子



ポスターセッション会場（第二会議室）の様子

◎ CIFOR（国際林業研究センター）と共同研究協力に関する覚え書き（MOU）交換

去る1月17日（金）、インドネシア・ボゴールのCIFOR所長室において、廣居忠量森林総合研究所理事兼代理の小林繁男研究管理官と、David Kaimowitz CIFOR所長との間で、科学及び技術協力のために森林総合研究所・CIFOR間のMOUが交わされました。

当所は、平成9年（1997）10月16日にCIFORとMOUを交わしましたが、その後、森林総合研究所が独立行政法人として組織を新しくし廣居理事長が就任する一方、CIFORもKaimowitz所長に交代したのを契機に、継続更新としてMOUを交換しました。

CIFORには現在、藤間剛主席研究員が派遣され、外務省プロジェクト「荒唐熱帯林の修復」を行っています。このプロジェクトは2005年に終了しますが、今後のプロジェクト課題についても協議をはじめました。また、森林火災やクリーン開発メカニズム（CDM）といった分野で研究協力を行っています。



MOUに署名するKaimowitz CIFOR所長（左）